

八丈島 水産だより

11月号

2015



イソギク



騎馬戦

11月3日、島内の3つの小学校で運動会が開催されました。各小学校では、子供たちの白熱した競技や組体操などの演技のほかに、大人が参加する地区対抗リレーや職場対抗リレーが行われ盛り上がりました。このなか、坂上地区にある三原小学校は、来年から三原中学校と合同での実施となるため、最後の小学校単独での開催となりました。

■ ムロアジ漁の漁模様

現在、ムロアジ（クサヤモロ）の棒受け網漁は、3隻の漁船が漁を行っています。海が荒れることが多く、1ヶ月のうち半分ほどしか操業できていませんが、各船は1日で1トンほどを水揚げ、順調な漁が続いています。



クサヤモロ

■ 調査指導船 たくなん



たくなん



八丈海洋ニュース

漁船がたくさん泊まっている神湊漁港にひときわ大きな船があります。島しょのうりんすいさんそうごう農林水産総合センターの調査指導船「たくなん」です。「たくなん」は八丈島から鳥島付近までの伊豆諸島南部海域を担当しており、大きく分けると3つの仕事があります。

1つ目は「海洋観測」です。定期的に八丈島周辺の海況（海水温や塩分、海流の状況など）を調べています。集めたデータは「八丈海洋ニュース」などを通して、漁師さんたちに提供され、漁をする場所を決める重要な情報のひとつとなっています。

2つ目は「試験操業」です。島の漁業にとって重要なキンメダイ、カツオ、ムロアジ、トビウオなどを獲って、研究に必要な情報を集めています。体長や体重、胃の内容物などを調べたり、魚に標識をつけて海に放す「標識放流」を行い、回遊ルートを探っています。

3つ目は「漁業取締」です。八丈島周辺海域の操業のルールが守られるように、海のパトロールを行います。また、沖合で漁船の故障や海難事故が発生した時には救助活動も行い、海の安全の確保にも努めています。